海の研究 (Oceanography in Japan), **19** (4), 202 – 212, 2010

学 会 記 事

第 19 巻 第 4 号　2010 年

目 次

1. 南日 俊夫博士の逝去を悼む　202

2. 議事録　204

2.1. 2010 年度 日本海洋学会通常総会議事録 . . . 204
2.2. 2010 年度 春季評議員会議事録 206
2.3. 2009 年度 第 7 回幹事会議事録 208
2.4. 2010 年度 第 1 回幹事会議事録 210

3. 報告　211

3.1. 2010 年度日本海洋学会春季大会報告 211

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

1. 南日 俊夫博士の逝去を悼む

南日 俊夫博士が，平成 22 年 3 月 17 日 89 歳の天寿を全うされて，彼岸に旅立たれた。心より哀悼の意を表します。さて，博士と海洋学会とのかかわりは，昭和 16 年，東京帝国大学に海洋学の講座が開設されたとき，その第一回生として，日高 孝次教授の下にはせ参じ，日本海洋学会の創立に加わったことにはじまる。日本海洋学会といっても，当時は日高一家と言っていいほどのファミリアーな会で，小生が始めて参加した昭和 30 年代初頭でも，発表論文数がすべての分野を合わせても 50 題に満たず，一つの会場で全部の講演を聴くことが出来た。東京での総会の後の懇親会も日高邸で行われることが多かったようで，南日さんも世話役として会を取りしきっておられた。昭和 36 年秋には，海洋学会創立 20 年記念行事として国際会議を含む，多くの催しがあったが，実行委員の一人として活躍されていた。その前後，幹事，評議員などを多年にわたり歴任されている。そして，昭和 54 年から二期間，会長の重責を担い，海洋学会の発展に多大の貢献をされてきた。専攻は海洋物理で，それに関する著書もある。海況予報技術の向上，波浪関連の研究等もなされていた。その他にも，気象庁の赤松 英雄技官と組んでの測器の試作改良にも力を注がれていた。これらの総合的な成果として（海流の変動機構の研究で），昭和 43 年 6 月，運輸大臣表彰を受けられている。そのほかにも，学識経験者として，政府の審議会等の委員も多数務められた。

以下思い出すままにいくつかの南日さんの在りし日の面影を紹介することで，弔文に代えさせていただきたい。

1. 手動計算機を駆使しての数値計算で，海洋の大循環の実体解明を図られた日高教授門下であるだけに，数値計算に対する関心は高かった。コンピューターが気象庁に導入されてまもない頃，海況予報をコンピューターで，と言う数値計算の試みをなされた。海洋など研究的意義の強い目的で使用できる計算時間に限りがあり，試みだけで終わったのは残念であったが，先駆的な研究であった。
2. 波浪の研究に関しては話題があった。うねりによる沿岸流の生成に関するものであるが，当時として，離岸流，向岸流などを総合した沿岸循環の思想は未完成であったと思われる。昭和 30 年夏，津市の中学生が，海水浴中に急潮流による遭難事故が発生し，その責任を問う

裁判になり，南日さんも学識経験者として「事故の原因には，台風のうねりによる強い沿岸流（現在の用語では，並岸流と書いたほうがよいか）の発生によるもの」として意見を陳述されている。現象の総合的把握が出来ていないときであり，ほかに数人の人が別の知見を披瀝された。裁判で最終的にどのように判断されたかは知らないが，原因の把握に相当苦労した様であった。因みに，当時は海洋観測船も少なく，海洋学者とは言いながら，湖の研究もなされていた時代であった。

3. 測流は，昭和 30 年代には，エクマン・メルツの流速計が多用されていたが，記録式測器を試作。電子機器が，現在のように自在に使える以前の時代なので，記録といっても煤の塗られたフィルム上に針でアナログ状に記録する方式であった。試作品が出来たとき，神戸海洋気象台がそれを借用して，遠州灘で測流観測を行った。表面流は船のドリフトで定めて，海中の相対速度の分布を測定した。流れのあまり強くないいわゆる冷水域内であったが，海面の推定流向流速と流速計による表層の流れとが著しく異なる測定結果がでた。面白い現象が見つかったと喜んだ。しかし念のため，測器を分解して，チェックしてみると，方向指示が，測器の頭の向いた方になっていることがわかり，悦びは，雲散霧消した。測器製作者が風向と同じ表示にして納品していたことがわかり，そのように報告すると，南日さんも怒ることもならず，苦笑いされながら，業者の教育をなさっていた。試験観測で見つかって良かったと思った。
4. 研究に対する姿勢は厳しく，学会に発表を予定した論文の部内発表会では，厳しい指摘で論文の質を高めるべく努力されていた。その厳しさとも関連してか，陰で南日将軍とあだ名で呼ばれ，畏怖されていた。昭和 20 年代終わり頃，朝鮮戦争の終結交渉にしばしば登上した強面の北朝鮮代表に因んだものであるが，普段の南日さんはもの静かで温厚な紳士であった。その名が決して相応しいものではなかった。
5. 酒席でも乱れた姿は見たことがない。また高円寺に研究所があった頃，職員は，昼休みには，テニス，卓球，バレーボール，バトミントン，など多くのスポーツに興ずる人が多かったが，南日さんはそれらのどれも参加されないで，せいぜい見学か，周囲を散歩されるくらいであった。その面ではエピソードの少ない人であった。
6. 理論海洋学主体であったためか，分布図を描いて，事象を解析する海洋学すなわち,Oceanography という用語に懐疑的で, 気象学のように，logic 即ち Oceanology とすべきだと主張されたこともあったが，海洋学会が物理部門のみならず，化学，生物，海底地質など広い分野を包含する学問であるためか，大勢の認めるところとならなかった。また英語の表示が日本だけ異なるのも変との考えからか，その後そのような提案をする人もなかった。
7. 研究者に徹しておられて，世俗の出世欲はあまりなかったようであった。気象研究所勤務が長く，研究所を出られたのは昭和 47 年，広島地方気象台長になられたときであった。そこでも研究者らしく，調査研究の指導を適切になされ，職員の評判になっていた。その後，舞鶴海洋気象台へ，栄転の話があったが，本人のご希望も強く，海洋研究部長として研究所に帰られた。あのまま舞鶴に行って居られたら，研究所長の道もあったと思うが，行政畑での出世よりも，研究畑を選ばれた。その後，定年を 1 年余して，気象研究所のつくば移転を機に，東京商船大学教授に転身され，後輩の教育に携わられた。研究，教育部門に一生を捧げられたと言うことである。その後，気象旧友会や，研究所ＯＢの高円寺会で時折お眼に掛かる程度で，悠々自適の生活を送られていた。
8. 彼の人となりを解く一つの鍵として，出自，生い立ちを知ることであるが，詳しくは知らない。僅かに聞き知っていることを記す。高校や大学受験当時，殆どの人が，英語の参考書の御世話になった。我々の頃には，旺文社の赤尾に関わるものがはやりだしていた。それ以前には長い間参考書として，通称，小野圭，山貞，と南日があり，多くの受験生が愛用していた。南日さんが，この南日の著者南日恒太郎氏の末子であると聞いている。ご本人は殆ど語られることはなかったが，兄弟もかなりたくさん居られ，俊夫は，十四番目の意味だともっともらしく言う人もいた。その兄弟の中には，大学教授や参議院議員になられた方もいるという名門の一家であった。南日将軍という呼び名より，南日卿といいたいほどの貴公子然とした振る舞いもわかるような気がしている。

小生が，南日さんから直接のご指導を受けたのは，南日さんの気象研究所海洋研究部長時代の 6 年間であったが，海洋部門の大先輩として，四半世紀に亙り有形無形の薫陶を受けたことを感謝している，ここで，十分に南日さんの人となりを伝えら得なかったことの危惧を感じつつ，この拙文を捧げてご冥福をお祈りする。合掌

(小長 俊二)

2. 議事録

2.1. 2010 年度 日本海洋学会通常総会議事録

日 時　2010 年 3 月 28 日 (日) 13:05〜14:30
場 所　東京海洋大学 品川キャンパス 講義棟 大講義室
出席者　出席 100 名，委任状 424 名，計 524 名

1. 開 会
中田幹事から学会会則第 28 条の規定による定足数に達していることの報告があった。
2. 議長選出
谷口会員を議長として選出した。
3. 会長挨拶（小池会長）
今大会の開催に際し，石丸大会実行委員長，吉田事務局長をはじめとする東京海洋大学所属会員に対して謝意が述べられた。成 22 年度第 3 期科学技術基本計画の最終年度であり，第 4 期科学技術基本計画に盛り込むべき内容について海洋関連学会からのインプットが求められており，日本海洋学会としての意見を文部科学省の海洋開発分科会に提出していることなどが述べられた。学会の事業については，岸編集委員長の尽力で「海の研究」が電子化されたこと，JO についても来年度に電子化する予定であること，宇野木先生のご寄付により青い海助成及び環境科学賞等を実施していることなどが報告された。
4. 大会委員長挨拶 (石丸大会実行委員長)
総会までの大会参加者数，発表数について報告されるとともに，スムーズな運営への協力に謝意が表された。
5. 報告事項
   1) 会務報告
      a) 庶務（田中幹事）
      2009 年 2 月から 2010 年 1 月までの会員異動状況について報告があった。2010 年 1 月末での会員総数は 1978 名。
      b) 編集
         i. *Journal of Oceanography* (才野編集委員長)
         3 月 15 日の幹事会で承認された，編集委員の交代について報告された。3 月 31 日付で工藤 勲委員が退任し，4 月 1 日付で神田 穣太委員が就任した。PICES2, REO-SCS に関する特別セクションが 3 月 26 日の幹事会で承認されたこと及び特別セクションの概要について報告された。第 65 巻 2 号から第 66 巻 1 号までの発行状況，第 66 巻 2 号以降の発行予定，近年の投稿数減少について報告された。JO 刊行体制の変更に関する検討の経緯，及び新たに Springer Japan と契約し 2011 年 1 月 1 日より新体制で刊行を開始することが報告された。
         ii. 「海の研究」(岸編集委員長)
         「海の研究」の電子ジャーナル化が完了し，第 19 巻 1，2 号が発行済みであり，特に問題は生じていない旨の報告がなされた。また，最近の学生からの投稿論文の質が低下している事例が散見され，共著者となっている教員等による指導の徹底を願いたい旨の発言があった。
      c) 研究発表（道田幹事）
      2009 年度大会及び 2010 年度春季大会の実施状況並びに 2010 年度秋季大会の準備状況が報告され，各大会の実行委員会への謝辞が述べられた。2011 年度大会の日程，体制等が評議員会で承認されたこと，及び各大会の概要が報告された。東京農業大学オホーツク校で開催予定の 2010 年度秋季大会の谷口実行委員長から挨拶が述べられた。
      d) 賞選考委員会
         i. 学会賞・岡田賞・宇田賞（日比谷委員長）
         2010 年度第 3 回三賞選考委員会において最終候補者の選考を行ったことが報告され，受賞最終候補者が紹介された。
         ii. 日高論文賞・奨励論文賞（川辺委員長）
         委員会を 3 回開催し，最終候補論文を選出したことが報告された。
         iii. 環境科学賞（鈴村委員長）
         宇野木先生からのご寄付によって今回賞が新設されたこと，選考委員会で受賞候補者を選出したことが報告された。
      e) 選挙管理（中野幹事）
      各賞の可否投票並びに学会賞・岡田賞・宇田賞候補者選考委員，論文賞候補者選考委員，及び環境科学賞候補者選考委員の半数改選を行ったことが報告された。

f) 環境問題委員会（鈴村委員長）
2009 年度のシンポジウム実施状況，環境科学賞選考の選考及び青い海助成事業の審査を行ったこと等が報告された。

g) 沿岸海洋研究部会（武岡部会長）
「沿岸海洋研究」の出版状況，シンポジウムの開催実績，速水論文賞受賞者の選考を行い，東京農工大の小野会員の受賞が決定したこと及び会員異動状況について報告された。

h) 西南支部（宮路部長）
2009 年に西南支部開設から 20 周年を迎え，昨年 12 月に秋山会員，小谷会員，三河会員がコンビナーを担当して，記念シンポジウムを開催したこと及び 2010 年 12 月に鹿児島大学においてシンポジウムを開催する予定が報告された。

i) 教育問題研究部会（市川部会長）
資料に基づき 2009 年度活動報告および 2010 年度活動計画が報告された。

2) 学界関連報告

a) 学界動向（花輪副会長）
日本学術会議から大型研究計画と施設についての提言が公表された。日本学術会議に昨年度 SCOR 分科会が設置され，活動が始まった。UNESCO/IOC は今年設立 50 周年を迎え，我が国でもシンポジウム等の記念行事が開催される。その他，大型研究計画である GODAE, SOLAS，PICES,IMBER 等のこれまでの活動や今後の活動計画が紹介された。

b) 日本地球惑星科学連合（川合幹事）
連合が一般社団法人となったこと，代議員選挙の実施結果，2010 年大会が本年 5 月に開催予定であること，地学オリンピックが 2012 年に地質学会が中心となって開催予定であること及び公益法人化の手続きを進めていること等が報告された。特に海洋学会員が数名，連合の代議員に選出されたことが報告された。

3) その他

a) 2010 年度日本海洋学会青い海助成事業応募課題の審査結果について（小川幹事）
宇野木名誉会員の寄付により実施。審査を行い採択課題を資料 6 に基づき説明。

b) 賞選考委員の半数改選に関する評議員会内規の改正について（小川幹事）
評議員会内規の改正案が評議員会で承認されたことが報告された。

c) 環境科学賞について（小川幹事）
今年初めて環境科学賞が授与されることが報告された。受賞者に副賞として授与されるメダルのデザインが紹介された。ボランティアでデザインを行ってくださった，JAMSTEC グラフィックデザイナーの三上さんへの謝意が述べられた。

6. 審議事項

1) 研究部会，委員会の名称問題と関連会則の改正について（小川幹事）
会則改正の背景が説明された上で，会則中,「研究部会」を「研究会」に改正すること，現行の「環境問題委員会」を研究会に移行すること，青い海助成事業を会務とする新たな環境問題委員会を幹事会の下に設置すること及び関連する会則の改正案が提案され，承認された。研究会則の改正について評議員会で事前承認されており，４月から新名称で活動開始すること，環境問題委員会の名称変更に関する経緯を文書に残すことについて評議員会で承認されたこと及び環境問題委員会の会則案が今後作成され，秋季評議員会で審議予定であることが報告された。

2) 総会成立の定足数に関する会則の改正について
資料に基づき，総会成立の定足数に関する会則の改正案の提案と説明があり，承認された。

3) 事業報告および決算報告（田中幹事，安田幹事）
資料に基づき報告があり，承認された。

4) 2009 年度監査報告（平監査役）
監査の実施結果について，収支決算等全て適正であったこと及びこれが会長に報告されていることが資料に基づき報告され，監査報告が承認された。監査役から今後会員増を検討すべきであること等についてコメントが述べられた。

5) 2010 年度事業計画，予算案（田中幹事，安田幹事）
2010 年度の事業計画及び予算案について資料に基づき説明が行われた。両案とも承認された。特に，今脇会員から JO 出版助成が受けられない現状の下，積み立てを継続する理由について質問があり，

才野 JO 編集委員長から，版権を買い取る必要がある場合に備えて積み立てを行っていたが，予算作成後にその必要がないことが判明したため，今後これを基本金に組み入れる計画である旨回答された。小池会長から基本金増分の活用方法案が説明され，今脇会員から会費値下げが要望された。

6) 名誉会員の推薦について（小川幹事）
關 文威会員及び角皆 静男会員を名誉会員に推薦することが提案され，推薦理由について説明があった後承認された。

2010 年度 日本海洋学会各賞授賞式

1. 日本海洋学会学会賞：上 真一会員に授与した。
2. 日本海洋学会岡田賞：上野 洋路会員，吉江 直樹会員に授与した。
3. 日本海洋学会宇田賞：宇野木 早苗会員，紀本 岳志会員に授与した。
4. 日本海洋学会日高論文賞：辻野 博之会員，小畑 元会員に授与した。
5. 日本海洋学会奨励論文賞：塩崎 拓平会員に授与した。
6. 日本海洋学会環境科学賞：清野 聡子会員に授与した。

2.2. 2010 年度 春季評議員会議事録

日時　2010 年 3 月 27 日 (土) 18:00〜20:00
場所　東京海洋大学 生協食堂（大学会館内）
出席者　小池会長，花輪副会長，秋友，淡路，池田，磯辺，市川（香），市川（洋），岩坂，上，植松，江淵，大島，小川，加藤，金子，蒲生，川辺，神田，岸，轡田，久保田，木暮，齋藤，才野，関根，平，高槻，武岡，武田，田上，津田，寺崎，中田（薫），日比谷，深澤，風呂田，松野，水野，道田，安田，柳，吉田各評議員，石丸大会実行委員長，鈴村海洋環境問題委員会委員長，宮地西南支部長，田中，中野，島田，河宮，川合，浜崎，山尾各幹事，毎日学術フォーラム (出戸，平坂)

開会に先立ち，中田幹事から評議員会細則第 3 条の規定により評議員会の成立要件を満たしている旨の報告があった。

1. 会長挨拶（小池会長)
今大会の開催に際し，石丸大会実行委員長，吉田事務局長をはじめとする東京海洋大学所属会員に対して謝意が述べられた。平成 22 年度第 3 期科学技術基本計画の最終年度であり，第 4 期科学技術基本計画に盛り込むべき内容について，文部科学省の海洋開発分科会から海洋関連学会からのインプットが求められており，日本海洋学会としての意見を提出していることなどが述べられた。
2. 大会実行委員長挨拶（石丸大会実行委員長）
評議員会当日までの大会参加者数，発表数について報告されるとともに，発表，総会等のスムーズな進行への協力が依頼された。
3. 幹事の変更について（小池会長）
武田幹事の転勤に伴う退任及び評議員による投票で次点であった浜崎会員の新幹事への推薦が提案され，承認された。浜崎新幹事から挨拶が行われた。
4. 報告事項
   1) 会務報告
      a) 庶務（田中幹事）
      2009 年 2 月から 2010 年 1 月までの会員異動状況について報告があった。
      b) 編集
         i. *Journal of Oceanography* (才野編集委員長)
         3 月 15 日の幹事会で承認された，編集委員の交代について報告された。3 月 31 日付で工藤 勲委員が退任し，4 月 1 日付で神田 穣太委員が就任した。PICES2, REO-SCS に関する特別セクションが 3 月 26 日の幹事会で承認されたこと及び特別セクションの概要について報告された。第 65 巻 2 号から第 66 巻 1 号までの発行状況，第 66 巻 2 号以降の発行予定，近年の投稿数減少について報告された。JO 刊行体制の変更に関する検討の経緯，及び新たに Springer Japan と契約し，2011 年 1 月 1 日より新体制で刊行を開始することが報告された。
         ii. 「海の研究」(岸編集委員長)
         「海の研究」の電子ジャーナル化が完了したことの報告がなされた。また論文の質（総会報告参照）についてのコメントがあった。
      c) 研究発表（道田幹事）
      2009 年度大会及び 2010 年度春季大会の実施状況並びに 2010 年度秋季大会の準備状況が報告された。

d) 賞選考委員会

i. 学会賞・岡田賞・宇田賞（日比谷委員長）
2010 年度学会賞，岡田賞，宇田賞の選考状況について報告があった。

ii. 日高論文賞・奨励論文賞（川辺委員長）
2010 年度日高論文賞，奨励論文賞の選考状況について報告があった。

iii. 環境科学賞（鈴村委員長）
2010 年度環境科学賞について受賞候補者選考委員会委員の選出及び受賞候補者の選考状況が報告された。

e) 選挙管理（中野幹事）
各賞の可否投票並びに学会賞・岡田賞・宇田賞候補者選考委員，論文賞候補者選考委員，及び環境科学賞候補者選考委員の半数改選を行ったことが報告された。論文賞候補者選考委員に京都大学の宗林会員を追加委嘱することが会長から提案され承認された。

f) 環境問題委員会（鈴村委員長）
2009 年度のシンポジウム実施状況，次年度青い海助成事業の一次審査を行ったこと，青い海助成事業を本年 2 件採択したこと及び「環境問題研究会」への名称変更が委員会において承認されたことが報告された。環境問題委員会の名称は過去に総会で承認された上で成立しているものであり，名称変更等の経緯を文書に残すことが提案され承認された。

g) 沿岸海洋研究部会（武岡部会長）
「沿岸海洋研究」の出版状況，シンポジウムの開催予定。速水論文賞受賞者の選考を行い，小野会員の受賞が決定したこと及び会員数について報告された。

h) 西南支部（宮路部長）
2009 年に西南支部開設から 20 周年を迎え，昨年 12 月に秋山会員，小谷会員，三河会員がコンビナーを担当して，記念シンポジウムを開催したこと及び 2010 年 12 月に鹿児島大学においてシンポジウムを開催する予定が報告された。

i) 教育問題研究部会（市川部会長）
「海のサイエンスカフェ」,「研究船で海を学ぼう」，同シンポジウム，教科書の作成状況等，部会の活動状況及び今後の活動予定について報告された。

2) 学界関連報告

a) 学界動向（花輪副会長）
日本学術会議から大型研究計画と施設についての提言が公表された。日本学術会議に昨年度 SCOR 分科会が設置され，活動が始まった。UNESCO/IOC は今年設立 50 周年を迎え，我が国でもシンポジウム等の記念行事が開催される。その他，大型研究計画である GODAE，SOLAS，PICES，IMBER 等のこれまでの活動や今後の活動計画が紹介された。

b) 日本地球惑星科学連合（川合幹事）
連合が一般社団法人となったこと，代議員選挙の実施結果，2010 年大会が本年 5 月に開催予定であること，地学オリンピックが 2012 年に地質学会が中心となって開催予定であること，及び公益法人化の手続きを進めていること等が報告された。特に海洋学会員が数名，連合の代議員に選出されたことが報告された。

3) その他

a) 青い海助成事業について（小川幹事）
2010 年度事業の選考過程及び採択課題について報告された。

b) 環境科学賞について（小川幹事）
受賞者に副賞として授与されるメダルのデザインが紹介された。ボランティアでデザインを行ってくださった，JAMSTEC グラフィックデザイナーの三上さんへの謝意が述べられた。

5. 審議事項

1) 名誉会員の推薦について（小川幹事）
3 月 28 日に開催予定の総会に 2 名の会員を名誉会員に推薦することが提案され，承認された。

2) 研究部会，委員会の名称問題と関連会則の改正について（小川幹事）
会則中,「研究部会」を「研究会」に改正すること，現行の「環境問題委員会」を研究会に移行すること，青い海助成事業を会務とする新たな環境問題委員会を幹事会の下に設置すること及び関連する会則の改正案が提案され，承認された。

3) 沿岸海洋研究部会と教育問題研究部会の名称変更に伴う部会則改正について（小川幹事）
資料に基づき，両部会則中,「研究部会」を「研究会」に変更することが提案された。手順として，総会で会則を改正した後，評議員会にて研究会則の改正が審議される手順であるが，半年のギャップを生まないために 3 月 28 日に開催予定の総会にて会則改正が承認された場合という条件付きで承認された。環境問題委員会については今後会則案が作成され，秋季評議員会で審議予定。沿岸海洋研究部会の部会則名称が「規約」であり，教育問題研究部会については「部会則」。両部会則とも名称を「会則」に改正することが提案されたところ，文中の「規約」をすべて「会則」に改正する必要があり，今後評議員に持ち回り承認とすることが承認された。

4) 総会成立の定足数に関する会則の改正について（小川幹事）
資料に基づき，総会成立の定足数に関する会則の改正案の説明があり，これを総会に諮ることが承認された。

5) 賞選考委員の半数改選に関する内規の改正について（小川幹事）
評議員会内規の改正案について資料に基づき説明があり，承認された。

6) 事業報告および決算報告（田中幹事，安田幹事）
資料に基づき報告があり，承認された。

7) 監査報告（平監査役）
監査の実施結果について，収支決算等全て適正であったこと及びこれが会長に報告されていることが資料に基づき報告され，監査報告が承認された。監査役から，今後会員増を検討すべきであること，出版助成を求めていくべきことについてコメントが述べられ，才野幹事から出版助成を 2008 年から申請していない理由及びその代替案が説明された。

8) 事業計画，予算案（田中幹事，安田幹事）
2010 年度の事業計画及び予算案について資料に基づき説明が行われ，両案とも承認された。

9) 総会議事次第について（小川幹事）
議事次第案について資料に基づき説明が行われ，これが承認された。

10) 総会議長および受賞記念講演座長の推薦について（中田幹事）
推薦案について資料に基づき説明が行われ，これが承認された。

11) 2011 年度春季大会の開催について（道田幹事）
資料に基づき大会の会期，会場，担当案が提案された。また，2011 年秋季大会について，福岡地区会員の担当で開催する案が提案され，両案とも承認された。春季大会実行委員長である木暮評議員から挨拶が述べられた。

2.3. 2009 年度 第 7 回幹事会議事録

日時　2010 年 3 月 15 日 (月) 14:00〜17:00
場所　毎日コミュニケーションズ マイナビルーム 9F–E
出席者　小池会長，花輪副会長，小川，川合，河宮，才野，島田，田中，中田，中野，道田，安田，各幹事，事務局毎日学術フォーラム (出戸，平坂)

1. 議事録案確認
第 6 回幹事会議事録案を確認した。

2. 審議事項

1) 入退会について（小川幹事）
入退会（12，1 月）を承認した。入会 8 名，退会 7 名，逝去 2 名，2009 年 1 月末現在会員数 1978 名。

2) シンポジウムの後援・協賛等について（小川幹事）
第 25 回北方圏国際シンポジウムの後援ならびに ASLO 大会シンボルマーク資料許諾を承認した。

3) 募集・推薦の依頼，転載許諾等について（小川幹事）
公募・推薦の依頼 3 件（三菱財団平成 22 年度助成金公募，平成 23 年度特別研究員・特別研究員 PRD の募集，第 26 回国際生物学賞候補者推薦）ならびにシンポジウム・講演等のお知らせ 2 件（平成 21 年度海洋情報部研究成果発表会，Techno-Ocen）等をメーリングリストにて配信するとともに，転載許諾 1 件処理した旨報告があり，了承した。

4) 研究会・委員会関連の会則改正について（小川幹事）
研究部会等の名称問題に対応するため，関連会則，第 9 章第 41 条，第 3 章第 17 条 2 項，第 4 章第 32 条の改正案が提示された。文案どおり評議員会ならびに総会に提案することを承認した。

5) 沿岸海洋研究部会と教育問題研究部会の名称変更に伴う部会則改正について（小川幹事）
沿岸海洋研究部会と教育問題研究部会の名称変更に伴う部会則改正案（「日本海洋学会沿岸海洋研究会規約（案）」「日本海洋学会教育問題研究会会則（案）」）が各部会より提示されたが，一部修正を要する箇所が見受けられたのでその旨を各研究会に伝えることとなった。なお，総会で会則改正が承認されることを前提に，春の評議員会で部会則改正案の審議を行うことを確認した。

6) 総会の定足数に関する会則改正について
前回の幹事会からの懸案事項である会則第 4 章第 28 条に定められる総会の定足数について議論し，現在の「団体会員を除く会員の６分の１以上の出席」から「１０分の１以上の出席」へと引き下げることを内容とする会則の改正を評議員会，総会で提案することとなった。

7) 2010 年度選出予定の名誉会員の推薦書について（小川幹事）
2010 年度選出予定の名誉会員の推薦理由書 2 件について内容を確認し，承認した。

8) 2010 年度「青い海助成事業」の応募課題について（小川幹事）
1 月 15 日–2 月末日で募集された 2010 年度青い海助成事業への応募課題の紹介と海洋環境委員会による事前審査結果の報告が行われた。事前審査で推薦された 2 課題について検討し，ともに応募内容の補足説明が必要と判断されたことから，提案者に補足説明資料の提出をもとめ，再度メール審議を行って，次回幹事会までに採択課題を決定することとなった。

9) 2009 年度決算報告及び 2010 年度予算案について（安田幹事・河宮幹事）
   a) 2009 年度決算報告；2009 年度決算結果が説明され，監査により適正であったと認められた旨，報告があった。なお，監査から，①大会事務局から寄付がある場合とない場合があり大会準備金が十分かどうか，②学会 HP の制作費が決算報告から見えてこない，等の指摘点があったことから，①については初期の運転資金で，基本的には学会に戻すものである旨を大会事務局に説明すること，②については摘要欄に書き込んで明示するなどの対策を講ずることになった。
   b) 2010 年度予算案；2010 年度予算案の説明があった。提案内容を検討し，予備費の縮減と学会基本金の増額などを内容とする一部修正を行い，評議員会ならびに総会に提案することとなった。

10) 2010 年春期評議員会及び総会議事次第案について
2010 年春期評議員会及び総会議事次第案の確認を行った。

11) JO 編集委員の交替について（才野幹事）
JO 編集委員の交替について，3 月 31 日付で工藤 勲会員が委員を退任し，代わりに 4 月 1 日付で神田 穣太会員が就任することを承認した。

3. 報告事項

1) JO 編集委員会（才野幹事）
JO の編集状況について，ページチャージを課すようになり，JO の投稿数の減少が著しく，2010 年に入り受付けた論文数が 17 編であること，2009 年度の受けつけ総論文数が 95 編と久しぶりに 100 編を下回ったこと，現在の受理原稿は 6 月号までで，最近 1 年間の一月当たりの論文受理数が 5.8 編であるのに対して投稿数が 8 編であり，手持ち受理論文が減るだけでなく，質の維持にも問題が生じるのではないかとの懸念が表明された。
JO の刊行体制の変更について，テラパブ，Springer，学会（会長，副会長，才野編集委員長，津田編集委員）の三者による話し合いの結果， Springer Japan との契約に向けて見通しが立ってきたこと，これによってページチャージなしでの JO の刊行が実施できることになる等の報告があった。

2) その他報告事項
   a) 道田幹事より，2011 年度秋季大会ならびに 2012 年度春季大会の開催予定地について報告があった。
   b) 道田幹事より，海洋未来技術研究会会長より宇田賞賞金のとりやめについて申し出があったことが報告され，今後の対応について検討することとなった。
   c) 選挙管理委員会から，選挙結果について報告があった。各賞選考委員会委員の構成メン

バーについて，分野のかたよりがないかを次回幹事会までにチェックすることとなった。

d) 春季大会の準備状況について，田中幹事より報告があった。開催通知に「新入会員が春の大会に参加する際は，研究発表の申込の締め切り日までに学会事務局に入会申込書を提出していなければならない」と記されているにも関わらず，未入会者からの発表申し込みが多数あり，対応に追われているとの状況が報告された。この問題について，秋の大会までに対応方針を検討することとなった。この他，シンポジウムが多く大会発表が少ない等の状況が指摘された。

4. その他
2010 年度第 1 回幹事会が 3 月 26 日 18:00 から開催されることを確認した。

2.4. 2010 年度 第 1 回幹事会議事録

日時　2010 年 3 月 26 日 (金)
場所　東京海洋大学 9 号館 203 号室
出席者　小池会長，花輪副会長，小川，川合，岸，才野，島田，田中，中田，中野，浜崎，道田，安田，山尾，各幹事，
事務局毎日学術フォーラム (出戸，平坂)

開会に先立ち，武田元幹事と交替で幹事に就任した浜崎幹事の挨拶があった。

1. 審議事項

1) 2009 年度第 7 回議事録案について（中田幹事）
2009 年度第 7 回幹事会の議事録案を確認した。

2) 2009 年度事業報告について（田中幹事）
2009 年度事業報告を一部修正の上承認した。

3) 2010 年度事業計画について（田中幹事）
一部修正の上承認した。

4) 2009 年度収支決算報告について（安田幹事）
安田幹事より前回幹事会以降の変更点について，主に会費の納入状況や会誌収入が 100 万円少なかったなど，予算額と大きな差があった部分を中心に説明があった。

5) 2010 年度予算について（安田幹事）
2010 年度予算について，渡航費の 477,000 円への変更，予備費を減らして基本金に 100 万円組み入れること，役員評議員選挙等があるため通信運搬費を大きめに積算したことなど，前回幹事会以降の変更点が説明された。会員名簿の発行について議論があり，従来通り冊子体で発行し JO と一緒に送付することを確認した。また，基本金組み入れの理由について，学会運営の安定化のために行うことを確認した。

6) 評議員会議事次第案および通常総会議事次第案（小川幹事）
評議員会議事次第案および通常総会議事次第案の説明があり，発表者，発表順の確認を行うとともに，議事次第への「その他」の項目の追加などの微修正が加えて承認した。

7) その他

a) JO の特別セクション号の発行について（才野編集委員長）
JO の特別セクション号として「PICES 2」と「REO-SCS」を発行すること，「REO-SCS」は論文数が多いために 2 回に分けて出したいとの提案があった。査読者の一人は英語のネイティブスピーカーにすべきなどの条件を入れた方がよいなどの意見を付けて承認した。

b) 「海の研究」第 19 巻 3 号の内容について（岸編集委員長）
「海の研究」の電子ジャーナル化が完了し，第 19 巻 1，2 号が発行済みであり，特に問題は生じていない旨の報告がなされた。

2. 報告事項

1) 海洋未来技術研究会
寄付金のやりとりについて道田幹事から報告があった。あわせて，宇田賞副賞の寄付を来年度からとりやめたいとの会からの申し出について意見交換し，対応方針を秋の評議員会までに検討することとなった。

2) その他

a) 電子化後の JO の海外発送について
これまでは JO の余部を海外発送していたため，発送代だけでよかったが，電子化後はこのために印刷するとなると予算にひびくとの

指摘があった。今後，対応について検討していくこととなった。

b) 環境科学賞のメダルデザインについて
環境科学賞のメダルデザインが紹介された。デザインにあたった方への謝辞を総会で述べるとともに HP にも掲載することとなった。

次回 (2010 年度第 2 回) 幹事会を，2010 年 5 月 24 日 (月) に開催することとした。

3. 報告

3.1. 2010 年度日本海洋学会春季大会報告

3.1.1. 大会概要

大会日程　2010 年 3 月 26 日 (金)〜30 日 (火)
大会会場　東京海洋大学品川キャンパス
大会実行委員会
委員長　石丸 隆 (東京海洋大学海洋科学部)
副委員長 岩坂 直人 (東京海洋大学海洋工学部)
事務局長 吉田 次郎 (東京海洋大学海洋科学部)

3.1.2. 参加者 587 名 (シンポジウムのみの参加者は含まない)

名誉会員 2 名，通常会員 402 名，学生会員 137 名，非会員 46 名

3.1.3. 発表件数 254 件

口頭発表 205 件，ポスター発表 51 件（青い海採択事業含む)。加えて 10 件のシンポジウムが開催された。

3.1.4. 参加費等 (前納の場合)

参加費	通常会員	3,500 円	(2,500 円)
	学生会員	2,500 円	(1,500 円)
	非会員	4,500 円	(3,000 円)
懇親会費	通常会員	6,000 円	(5,000 円)
	学生会員	4,000 円	(3,000 円)
	非会員	6,000 円	(5,000 円)

講演要旨集　3,000 円 (郵送手数料 500 円)

3.1.5. 収支決算

収入の部	円
参加費収入	1,468,000
要旨集収入（700 部作成）	1,595,000
懇親会費	1,394,000
機器展示，広告，賛助会費	2,200,000
前大会事務局からの繰越金	1,000,000
前大会事務局からの寄付金	400,000
大会運営費 (学会事務局より)	400,000
計	8,457,000

支出の部	円
運営委託費	
HP 開設運営，参加受付，要旨集作成，印刷，発送，役務 (スタッフ派遣)	2,895,109
大会運営費	
レンタル (PC 等)，茶菓	1,014,106
会場費	548,285
人件費	459,500
懇親会費	1,740,000
次大会への繰越金	1,000,000
次大会への寄付	400,000
学会への寄付	400,000
計	8,457,000

3.1.6. 経過報告

2010 年 3 月 26 日から 30 日の 5 日間，東京海洋大学品川キャンパスを会場として 2010 年度日本海洋学会春季大会を開催しました。大会運営にあたっては，東京海洋大学海洋科学部（品川キャンパス）・海洋工学部（越中島キャンパス）に所属する会員 17 名を中心に準備を進め，参加登録や研究発表申し込みの受付けなどの作業は，例年通り，近畿日本ツーリスト (株) グローバルビジネス支店に委託しました。大会期間中は，これらの大会実行委員に学生アルバイトを適宜動員し無事に大会を終了することができました。今回の大会参加者数は 587 名，発表件数は 254 件で，ともに，昨年の春季大会と比べると減少となりました。この原因としては，各大学法人で第一期中期計画の終了とともに早期の予算執行を迫られたため出張旅費の執行が早まったことや，シンポジウム数の増加などが考えられますが，詳しいことは不明です。

会場はシンポジウムを除き，講義棟に集約し，また発表数も例年に比べ多くなかったことから，3 会場としました。発

表用パワーポイントファイルは各会場で PC を 3 台使用し，3 台の PC をハブと LAN ケーブル（学会持ち回り品）を用いて接続しデータ転送（ファイル共有）を行えるようにしました。また，発表時間管理に ”学会タイマー ”と呼ばれるフリーソフトを導入し，厳密な発表運営を行うことにより，円滑な運営を心がけました。また，今大会ではポスター発表会場と機器展示会場を中部講堂一つに集約して行いました。これは従来の大会で，機器展示会場に足を運ばれる会員諸兄がどうしても少なくなってしまうことから計らったものです。展示では，各展示団体へ広いスペースが確保でき，幾つかの団体からは良い展示会場だとの評価をいただきました。またポスター発表と同一会場であったため，立会い説明時には多くの来場がありましたが，恒常的に展示会場へ訪問者を誘導するにはさらに別の工夫が必要だと感じられました。ポスター発表は，立会い説明の時間帯を 3 月 27 日と 29 日の 2 回設定し，二回とも多数の来場があり，活発な議論がなされていました。天候不順の影響により，会場の暖房設備が不足し，皆様にご不便をおかけしたことをお詫び申し上げます。

事前登録の参加者が伸び悩みましたことから（事前参加締め切り時点で 476 名），支出過多になってしまうのではと当初かなり心配していましたが，14 社の団体の方々から大会賛助金を頂くとともに，多数の団体から機器展示 (23 団体 (宇田道隆先生業績資料展示含む)) および広告掲載 (13 団体) の申し込みを頂きました。また，2009 年度秋季大会の事務局からは繰越金に加えて寄付金を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。この結果，3 日目の夜に東京海洋大学生協食堂で開催した懇親会では，量と質とを兼ね揃えた料理を提供でき，参加された会員の方々には大変に満足して頂けたのではないかと思っております。特に，本大会で名誉会員に推挙されました，関，角皆両新名誉会員には本学松山学長，並びに石丸大会実行委員長と共に，用意いたしました樽酒の鏡割りをしていただき，宴は大いに盛り上がりました。おかげさまで，大会の最終的な収支決算においても，次大会への繰越金以外に剰余が生じましたので，この剰余分は次大会への寄付と海洋学会への寄付に充当させて頂きました。

最後になりましたが，大会の円滑な運営にご協力頂いた大会参加者の皆様，大会賛助や広告掲載，機器展示を通じて大会運営を支えて頂いた団体の皆様，さらに，会場となりました東京海洋大学事務当局，並びに懇親会，レンタル物品等でお世話になった東京海洋大学生協には厚く御礼申し上げます。また，大会会期間中，連日のように夜遅くまで設営などの準備作業にご協力頂いたボランティア学生の皆様にあらためて厚く御礼申し上げます。

(大会実行委員会事務局長　吉田 次郎)